

〔古事記傳二十三〕役病役字舊印本と延佳本とは疫と作り、其正字なり、されど眞福寺本及其餘の本どもにも皆役と作り、下文なる役氣も同じ、凡て此記の書ざまかゝる例多ければ、今は其に依つて疫と作る本は、後にさかしら、和名抄に、疫衣夜美、一云、度岐乃介説文云、民皆病也とあり、また、瘧俗云、衣夜美、一云、和良波夜美とあり、書紀にも、疫病、疫疾、疾疫、疫氣などみな延夜美と、そのかみ瘧をも衣夜美とも云しなるべし、延夜美とあり、書紀にも、疫病、疫疾、疾疫、疫氣などみな延夜美と訓り、又延能夜麻比と訓名抄に、龍膽衣夜美、久佐の、さて然名くる意は、まづ役を延とも延陀知とも云を、延陀知は役立なり、云へし、疫病も、漢籍に民皆病也と云る如く、人毎に病が、彼役に差されて立に似たる故なるべし、師は疫を延と云は、もと字音なり、次の文に神氣とある即是なれ思へりしは、役をも疫をも共に延と云を思へば、もと字音を取れるなり、若もよりの古言ならむには、かく同音の字にて同言なるべきに非ずと思へりしを、後になほよく思へば、然には非ず、共に固の古言なり、まづ役はおほぶから字音と同じきなり、凡て此方の古言と漢字音とおのづから似たり、同じも稀におほぶから字音となり、然るに其をも悉く彼を取れるも、漢字音と思ふは、申々に非なり、さて疫はかの役也と似たるから云こと上にも云るが如し、疫字も役より出たりと見ゆ、釋名に、疫、役也、言有鬼行役也と云へり、如此漢國にても役よりうつりて疫と云る、此はた此方の意とおのづから合へ、書紀欽明卷にも、國行疫氣、民致天殘、久而愈多、不能治療、敏達卷にも、是時國行疫疾、民死者衆と云ことあり、

〔令義解八〕醫疾、典藥寮、每歲量合傷寒、時氣、瘧、利傷中、金創、諸雜藥、以擬療治、謂中略時氣者、時行之病、春反冷、秋時應涼、而反熱、冬時應寒、而反溫、非其時、有其氣、是以一歲之中、病无長少、率相、似者、此則時行之氣、一名疫、言陰陽之氣、不和致其病、譬如役人、故曰疫、癘也、○中略、諸國准此、

〔諸病源候總論九〕時氣病、諸候、時氣候

時行病者、是春時應暖而反寒、夏時應熱而反冷、秋時應涼而反熱、冬時應寒而反溫、非其時而有其氣、是以一歲之中、病無長少、率相似者、此則時行之氣也、從春分後、其中無暴大寒、不氷雪、而人有壯熱爲病者、此則屬春時陽氣、發於冬時、伏寒變爲溫病也、從春分以後、至秋分節前、天有暴寒者、皆爲時行寒疫也、一名時行傷寒、

〔諸病源候總論四十六〕小兒雜病諸候、天行病、發黃候